2020年度 Unity講座(基礎編)

06回目

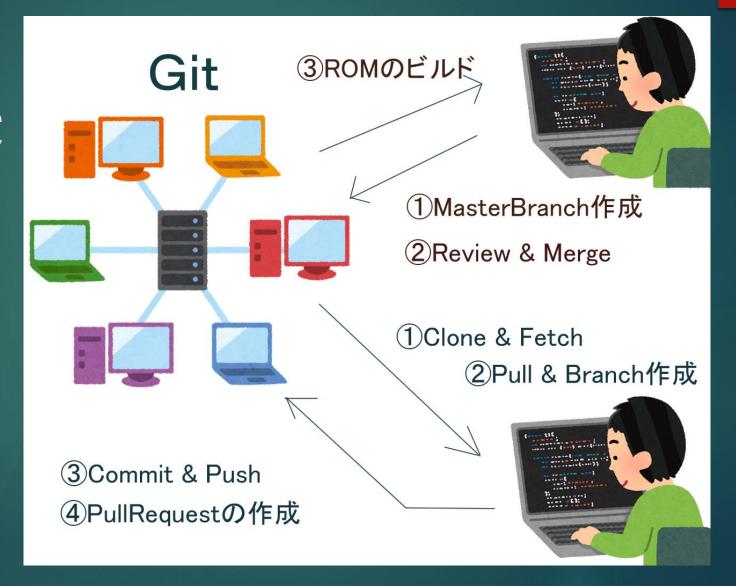
講師:幸田 将伍 (@MagurodonDev)

今回の講義の目的

- プログラムを自分で読めるようになる
- ▶ Unityを使って自分が実現したいことをできるようになる
- 自分一人でもゲームを作成できるレベルになる
- ▶ Unityの活用事例を学び、自分の進路に役立てる
- ▶ 実際のエンジニアがどういった仕事の進め方をしているかを知る
- ゲーム会社のクライアントエンジニアとして就職できるレベルになる

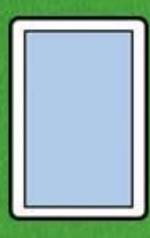
一緒にレベルアップして行きましょう!

- 前回はGitHubのサービスの使い 方、Gitの基礎用語等を学びました
- 今回からはハイアンドローを 作っていきます
- 今回に関してはロジックの部分を作成していきます
- まずハイアンドローのルールを 策定します



- ルール(仕様)
- 使うのはジョーカーを除いた デッキ(52枚)
- プレイヤーとCPUで2つに分ける
- CPUがカードを表で出す。
- プレイヤーがカードを伏せて出す
- プレイヤーは伏せられたカード がCPUの出したカードより上か 下を予想する
- 当たっていればプレイヤーが カードを取得



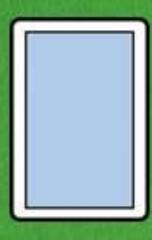


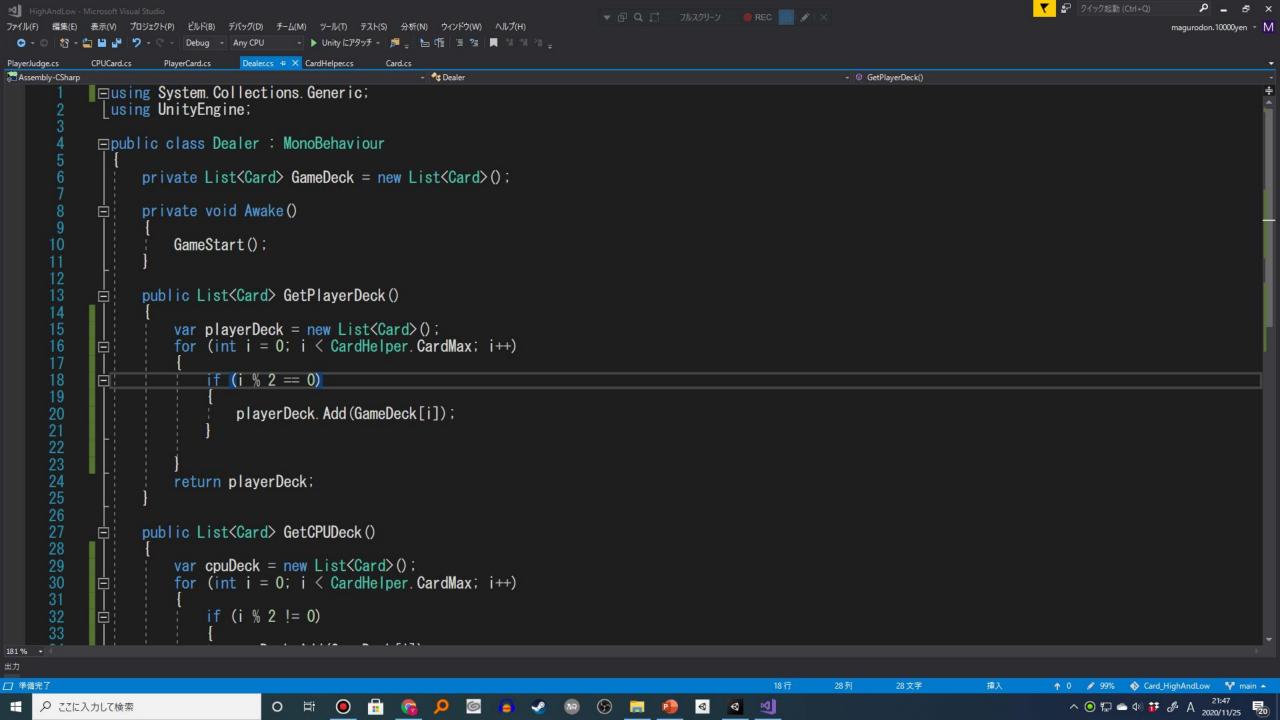
Unity

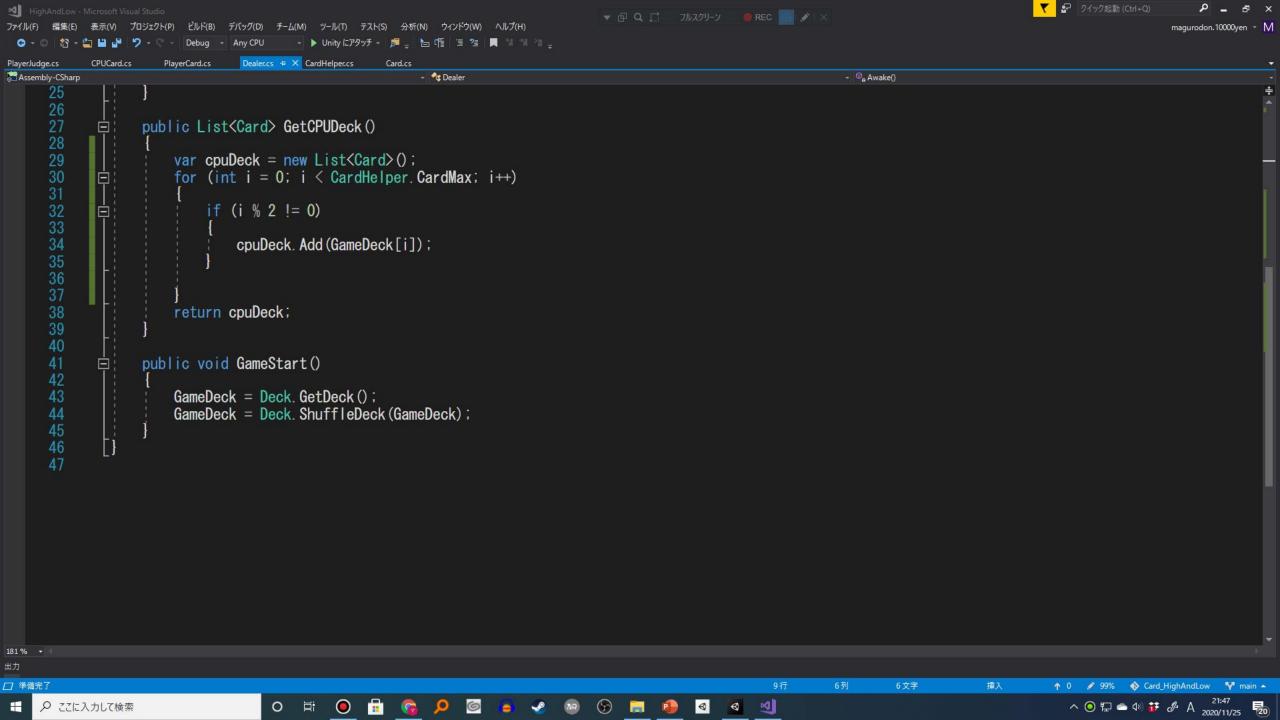
ハイアンドロー

- 前回はデッキを作るところまではできていたと思うので、今回は
- プレイヤーとCPUで2つに分ける
- CPUがカードを表で出す
- プレイヤーがカードを伏せて出 す
- プレイヤーは伏せられたカードがCPUの出したカードより上か下を予想する
- ここまで進めようと思います
- では早速ですが、Dealer.csを作成しましょう
- 役割はデッキからPlayerとCPU に1枚ずつ山札を分けることです
- For文を使って表現してみてくだ さい

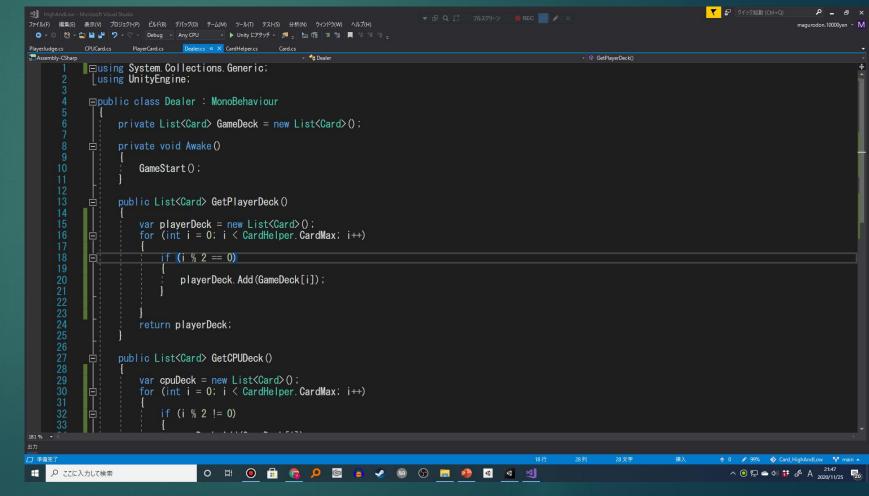




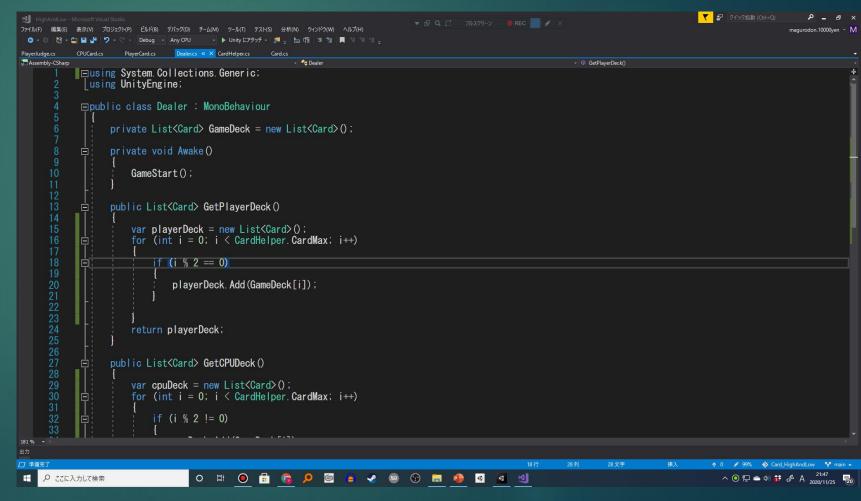


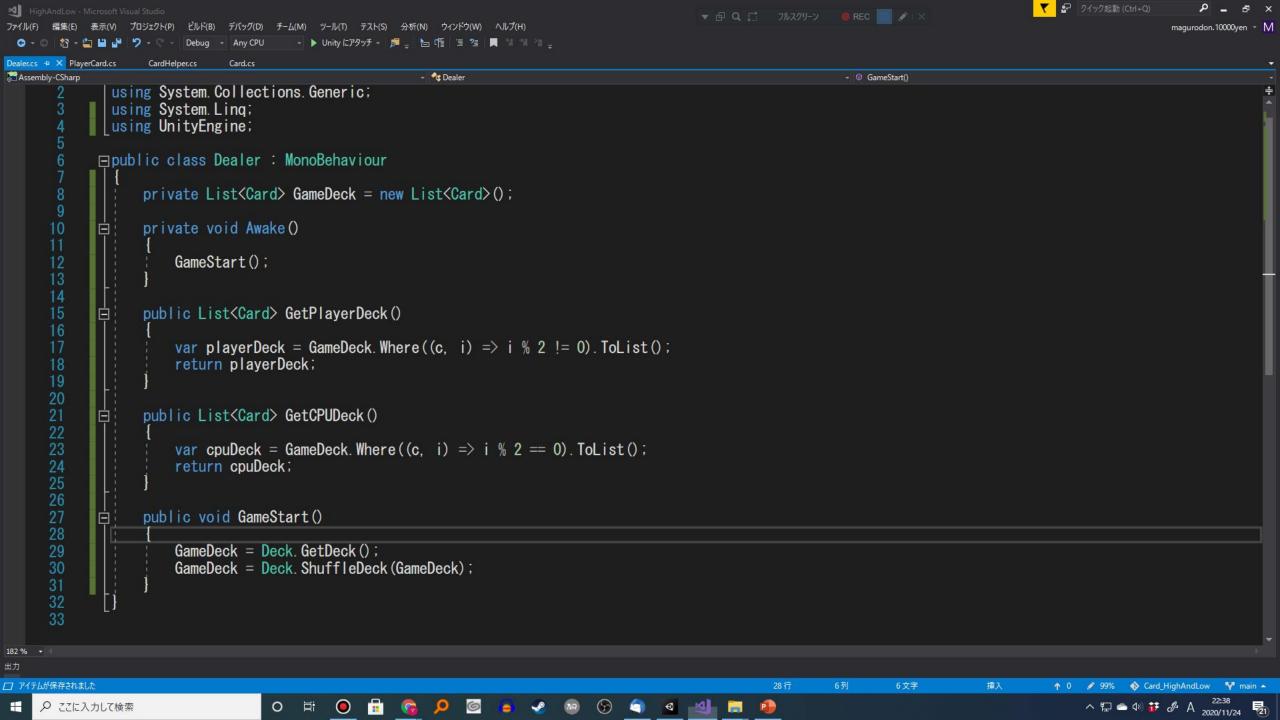


- * = new List<hogehoge>
- List<hogehoge>型の変数を定 義する時、必ずどこかで初期化 する必要があります
- 基本的には宣言してすぐに初期 化するといいでしょう
- 初期化する方法が上記の記述方 法です
- ※List.Add(hogehoge)
- Listに要素を追加する時に使うメ ソッドです
- hogehoge型のListにhogehoge を加えるということですね



- %List[int]
- Listや配列の番数を指定して、その要素を取得する書き方です
- List[0]だったらListの0番目の要素、List[5]だったらListの5番目の要素を取得します
- ここで注意なのですが、List[-1] や、List[Listの長さより大きい数字]だった場合、エラーとなりますので注意しましょう
- 因みになのですが、lingを使うと次の実装方法のようにすっきり書くことができます





- XList.Where(hoge => hoge)
- Linqを使うとWhere句を使う事ができます
- これは英単語の示す通り、どこの部分を取ってくればいいですか? といったところです
- 今回はWhere句の Where(Hogehoge,int)を使い、 intの部分でindexを取得してます
- Indexが2で割り切れる数(余剰が 0)だった場合は偶数番目
- Indexが2で割り切れない数(余剰が0ではない数)だった場合は奇数番目
- 上記の振り分けでplayerとCpuに デッキを渡しています

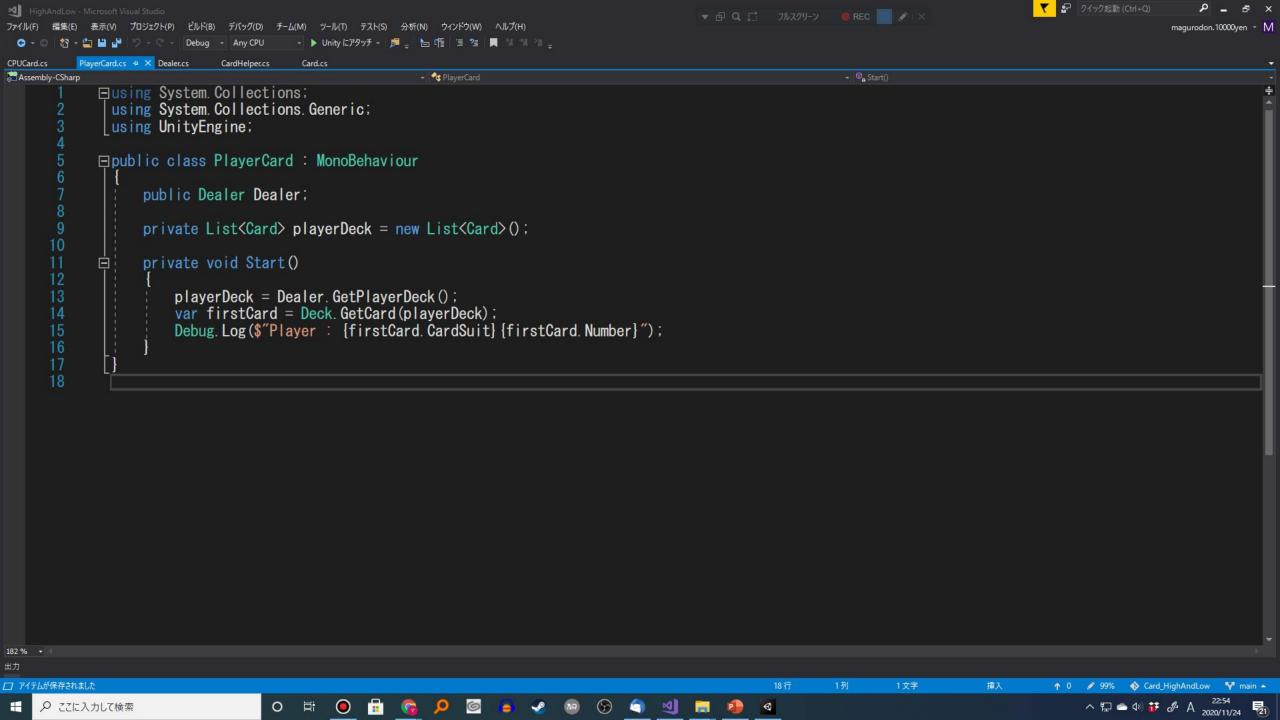
```
▼ ② クイック起動 (Ctrl+Q)
                                                     🔩 Dealer
                                                                                                              - @ GameStart()
         using System Collections Generic;
         using System.Linq;
       using UnityEngine;
       ■public class Dealer : MonoBehaviour
              private List(Card) GameDeck = new List(Card)();
             private void Awake()
                  GameStart();
             public List(Card) GetPlayerDeck()
                  var playerDeck = GameDeck. Where((c, i) => i % 2 != 0). ToList();
                  return playerDeck;
              public List(Card> GetCPUDeck()
                  var cpuDeck = GameDeck. Where ((c, i) \Rightarrow i \% 2 == 0). ToList();
                  return cpuDeck;
             public void GameStart()
                  GameDeck = Deck. GetDeck();
                  GameDeck = Deck. ShuffleDeck (GameDeck) :
₽ ここに入力して検索
```

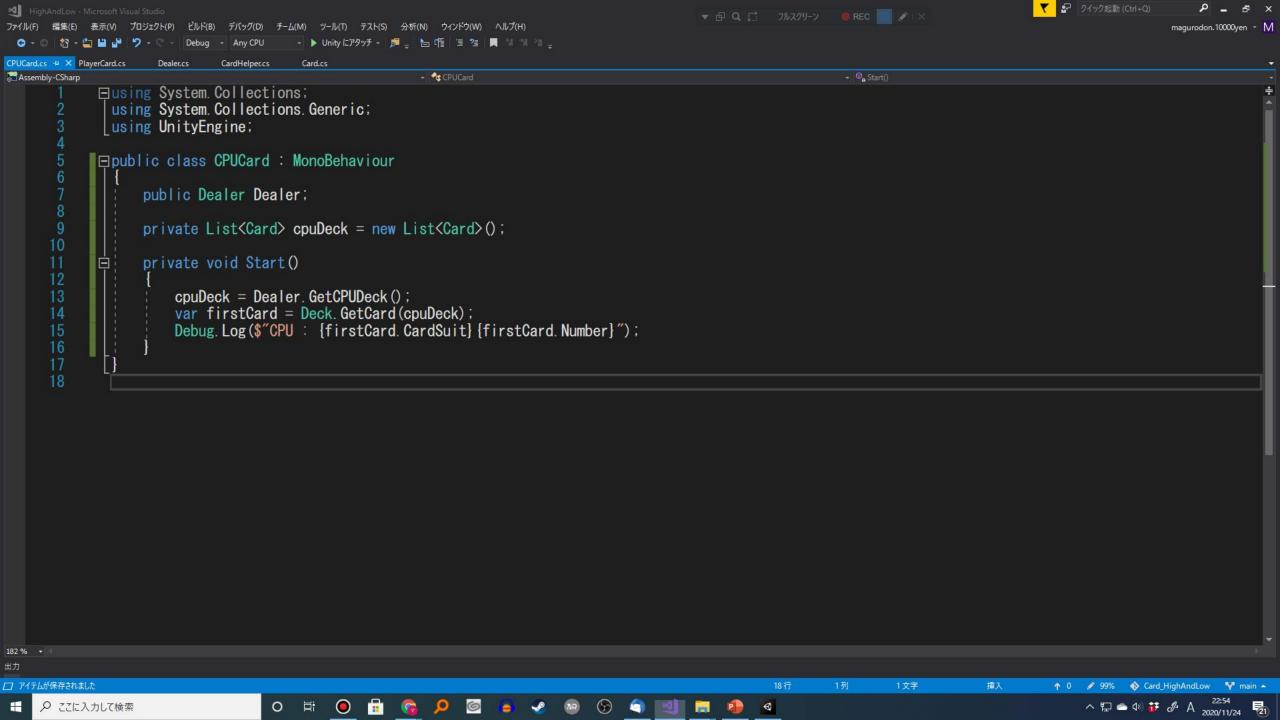
- ここでListで遊んでみましょう
- 次の配り方をしたい場合、この メソッドの中身を書き換えてみ ましょう!
- ①for文を使用してSpadeとClub はPlayerに行くように、Hartと DiaはCPUに行くようにしてくだ さい
- ②for文を使用して、0番目から 25番目まではPlayerに、26番目 から51番目まではCPUに行くよ うにしてください
- ③Playerが必ずCPUより高くなるように
- ヒント: ShuffleDeckを消して、 上から26枚とれば、必ず高くなるはずです

```
▼ ② クイック起動 (Ctrl+Q)
                                                   🔩 Dealer
                                                                                                           - @ GameStart()
         using System. Collections. Generic;
        using System. Ling;
       using UnityEngine;
       ■public class Dealer : MonoBehaviour
              private List(Card) GameDeck = new List(Card)();
             private void Awake()
                  GameStart();
             public List<Card> GetPlayerDeck()
                 var playerDeck = GameDeck.Where((c, i) => i % 2 != 0).ToList();
                  return playerDeck;
             public List<Card> GetCPUDeck()
                 var cpuDeck = GameDeck.Where((c, i) => i % 2 == 0).ToList();
                 return cpuDeck;
             public void GameStart()
                  GameDeck = Deck. GetDeck();
                  GameDeck = Deck. ShuffleDeck (GameDeck);
₽ ここに入力して検索
```

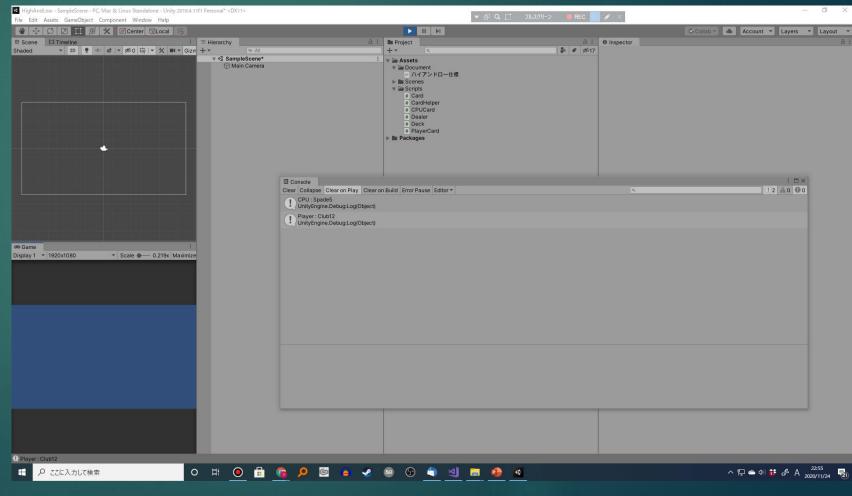
- では引き続いて、Cpuのカード とPlayerのカードを比べてみま しょう
- PlayerCardとCPUCardというスクリプトを作成します
- Startの中でDebug.Logを使って 振り分けられたデックの一番上 を出力します

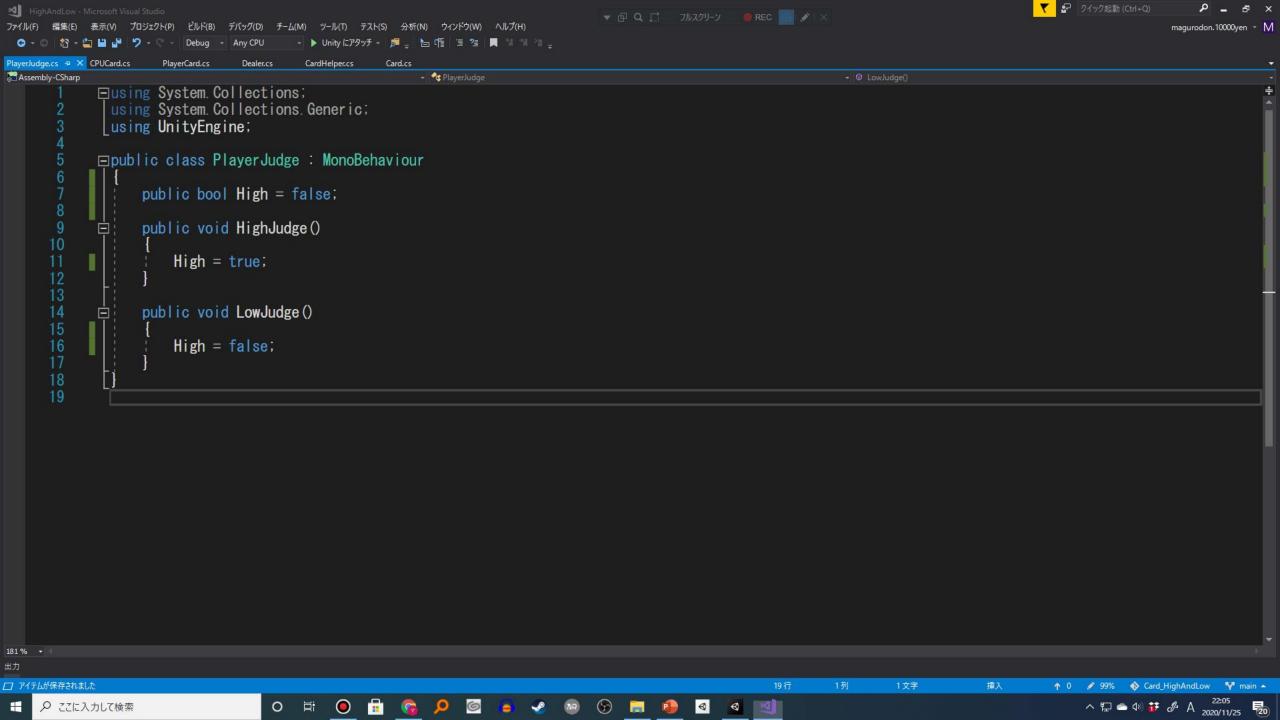
```
▼ P クイック起動 (Ctrl+Q)
                                                    🔩 Dealer
                                                                                                             - @ GameStart()
         using System Collections Generic;
        using System. Ling;
       using UnityEngine;
       ■public class Dealer : MonoBehaviour
              private List(Card) GameDeck = new List(Card)();
             private void Awake()
                  GameStart();
             public List<Card> GetPlayerDeck()
                  var playerDeck = GameDeck.Where((c, i) => i % 2 != 0).ToList();
                  return playerDeck;
             public List<Card> GetCPUDeck()
                  var cpuDeck = GameDeck. Where ((c, i) \Rightarrow i \% 2 == 0). ToList();
                  return cpuDeck;
             public void GameStart()
                  GameDeck = Deck. GetDeck();
                  GameDeck = Deck. ShuffleDeck (GameDeck);
₽ ここに入力して検索
```



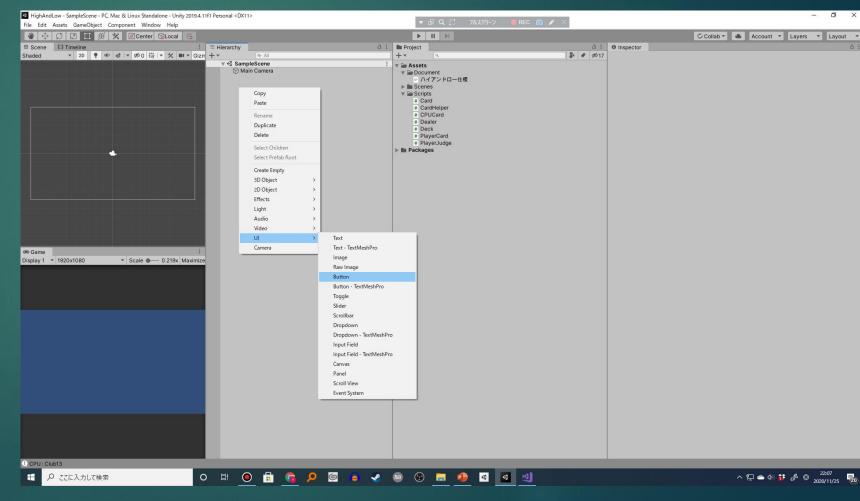


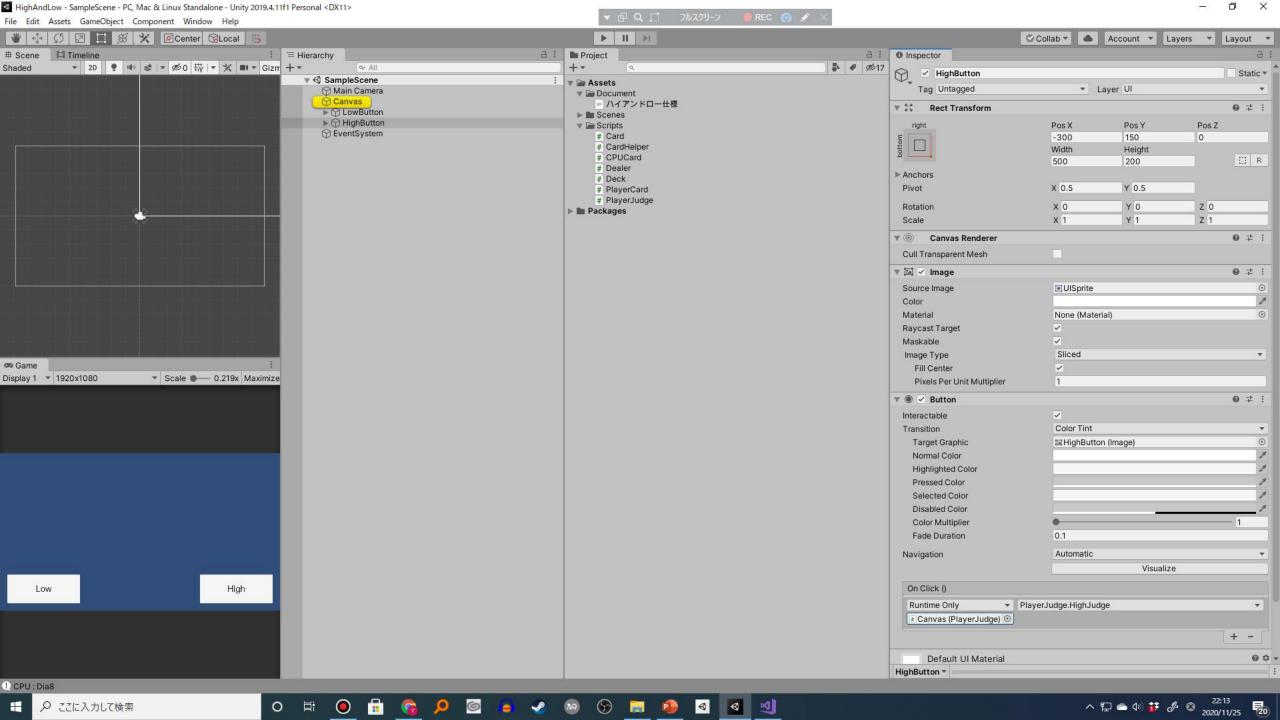
- mainCameraにDealerと CPUCardをアタッチし、noneに なっている場所を全て埋めて再 生してください
- ConsoleにCPUとPlayerの一番上 のカードを表示できたら大丈夫 です
- 次は比較をしていきましょう
- Buttonを2つ配置し、二つの値を 比べ、ハイかローかを判定しま しょう
- PlayerJudge.csを作成します



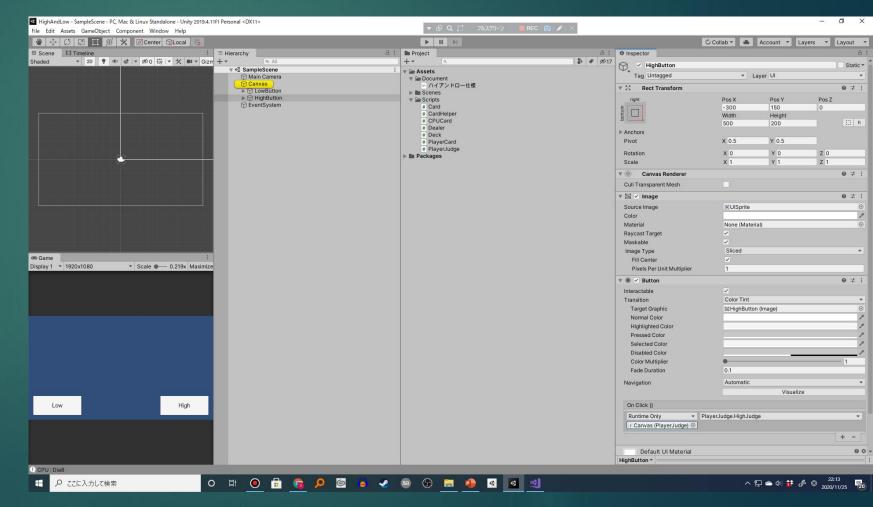


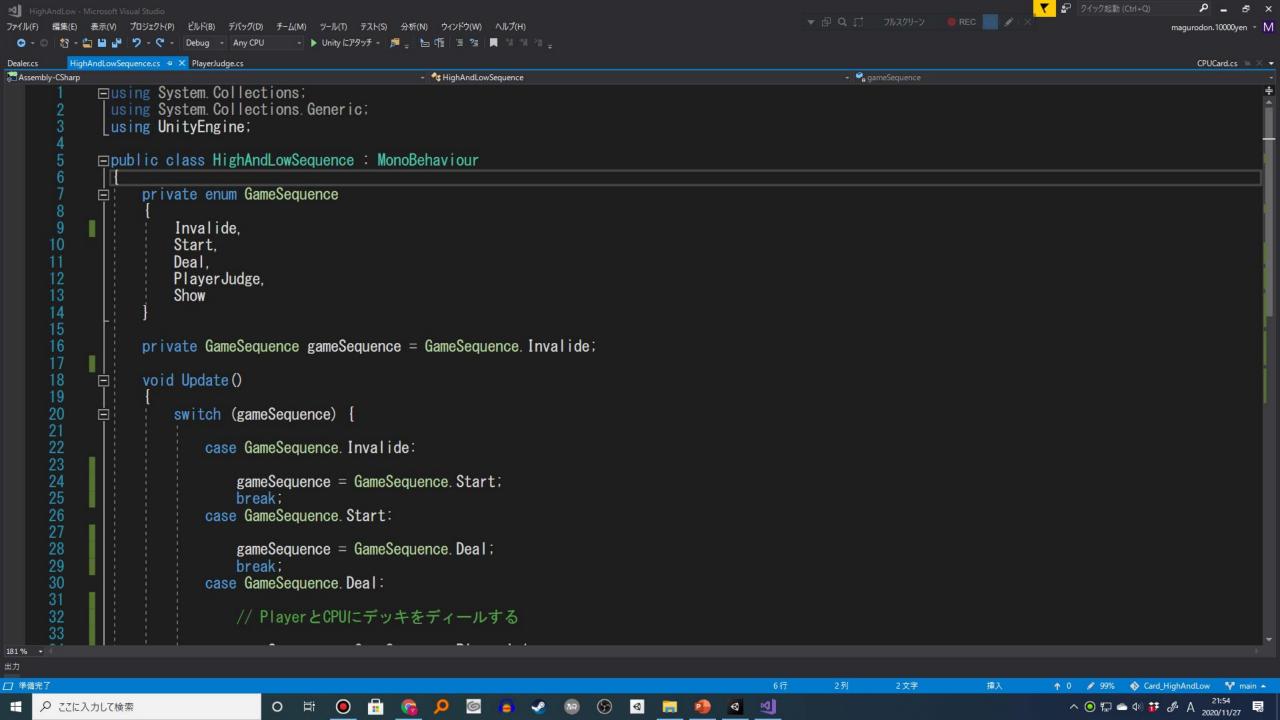
- Buttonを配置してみましょう
- Hierarchy欄で右クリックし、UI からButtonを選択します
- 小さいボタンが作成されると思いますので、大きさを調整し、 左側に配置します
- それをCtrl+Dで複製して、右側 にも配置
- 中の文字を左側のボタンを"Low"、右側のボタンを"High"としてください
- 最後に、CanvasにPlayerJudge をアタッチし、ボタンの設定を してください

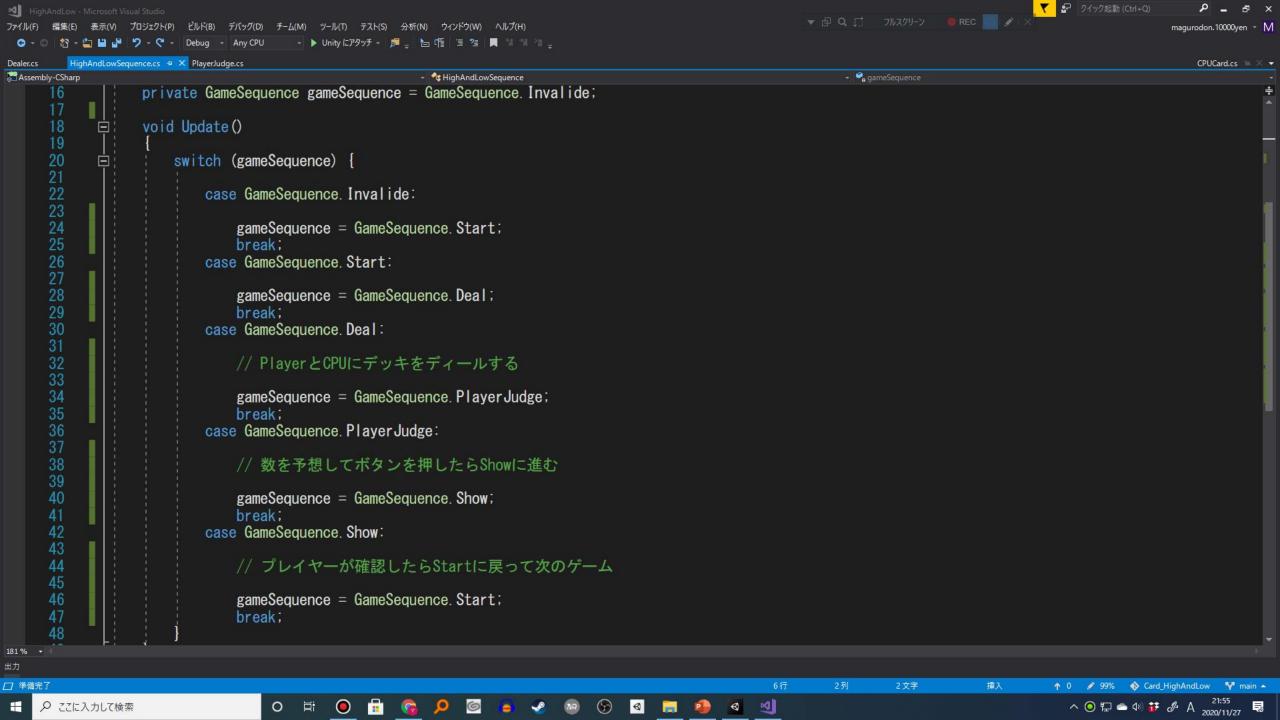




- ボタンの設定が終わりましたら ゲームのシーケンスを構築して いきます
- HighAndLowSequence.csを作 成します
- このスクリプトの役目はゲーム 全体の管理をします
- 今回は簡単にenumで状態を遷移 させていきましょう

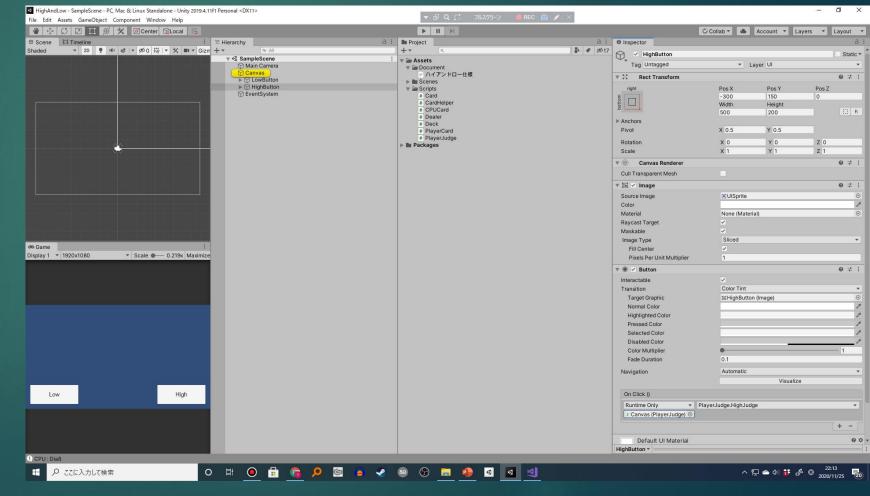






- ここからは実際にどういう書き 方をしてゲームを回していくか を実習していきます
- 一緒に書いていきましょう

次回に関しては、実際にトランプの描画をしていきます



Tips: Listや配列の利用方法

- リストや配列は本当によく使われます
- ひと昔前は
- [1,0,0,0,0]
- [1,1,1,1,0]
- [0,0,0,1,0]
- [0,0,0,1,2]
- これでMap等を表現していました(0が進行不能、2がゴール)
- ちなみに上は多次元配列と呼ばれるものです